

平成 26 年度 第 7 回三原市市民協働推進委員会 概要

◇日時：平成 27 年 2 月 26 日（木）午前 10 時～午前 11 時 50 分

◇場所：本庁議会棟 3 階 委員会室

◇出席委員：13 名（欠席 2 名）

◇議事内容

◇主な意見（○委員，●事務局）

1 開会

2 報告

- ・町内会ヒアリング調査結果について

事務局より説明。

○：ヒアリングで連合町内会についてうまくいっている話しをしてくださったにも関わらず中核組織の設立については、まだ必要でないと言われておられるのか。

●：アンケートでの回答である。

○：今回こういった場を設けて、ステップアップはあったのか。

●：参加した町内会からは、今まで情報がなかったもので、連合したらただ役員が増えるだけだという意見があった。ヒアリング後に話をしたら、すぐにはできないが、将来的には検討するところがあるのではないかとされた。

○：町内会の皆さんは話を持って帰られてどうされるのか。町内会員に持って行ってもらえるのか。

●：うまくいっている事例を、町内会の方がそれを持ち帰って皆に伝えたいという意見があった。

○：中核組織について、具体的にどういったイメージを持ってアンケートをされたのか。

●：住民組織活性化構想に掲げている活動中核組織，基礎組織の町内会が集まって、少し大きくした組織イメージの表を付けた。

○：ヒアリングでのうまくいっている事例は計画にどのように盛り込まれるのか。

●：計画の対応策には具体的に書いていないが、まちづくりプラットフォームで皆さんが会う場の必要性について、活動団体や住民組織も、共有を図るべきと考えている。それ以外にも、いい事例の情報提供については、具体的な一つの事業とすることを検討したい。

○：ヒアリングに参加された委員の方の感想をお聞きしたい。

○：まだ漠然としていて、その辺りを示さないとどちらを向いていいかわからないように感じた。地域によって状況が異なるため、基本的なことを決めていくしかないと思う。後は地域ごとに対応していくべきだ。プラットフォームを何回もやっていると難しいのではないかと。

○：中核組織は一度に全部やるのは難しい。自治会の条件に合わせて、一つひとつやっていく必要がある。今ある中核組織がどのように活動しているか、きちんと形にしないと、中核組織という言葉だけではイメージすることが難しい。中核組織の理想形，青写真を作らないといけない。

○：若い人がいないという状況だが、親世代や近所の方ががんばって活動していれば、若者も子ども達も帰ってくるのではないかと。そういったまちづくりをすれば大丈夫ではないかと思った。中核組織があれば、そこに声をかければ集まってもらいやすい。

- ：町内会だけでは活動しにくい。フットワークをよくするための中核組織だと示して皆さんに分かってもらうことを地道に続けていかなければいけない。
- ：三原地域も中之町のようにまとまったら活性化できるのではないかと感じた。
- ：中核組織を作っていく方向に進んでいけばいいが、町内会の温度や特性に違いがあり、イメージがわからないという意見もあるので、委員も行政もどんどん現場に出て行って、地道にこういったことだと話をするところからやっていかなければいけない。

3 協議

(1) 推進計画の骨子（案）について（別紙1-1, 1-2）

事務局より説明。

- ：「知る」「始める」「深める」とまとめてあり分かりやすい。ただ、担い手の状態について「関心なし」「興味あり」は、「情報がないからよく分からない」という表現のほうがやわらかいのではないかと感じる。関心がないというよりも、よく分からないこともあると思う。
- それと、別紙 1-2 に中間支援組織による協働のコーディネート機能の充実とあるが、中核組織と中間支援組織の違い、この2つが混同して受け止められているように思う。
- ：表現については、やわらかい表現に変更する。活動中核組織と中間支援組織の違いは、別紙1-2の裏面、③深めるの仕組みづくりで、具体的施策として「住民自治組織のあり方検討」を掲げている。ここで、活動中核組織の推進や、まちづくり協議会のようなモデル地区を想定した取り組みを行っていきたいと考えている。
- ：説明の時に、「連合町内会のような活動中核組織」と入れると違いが分かると思う。中間支援組織の場合は、「NPOなどを支援する中間支援組織」と入れると分かりやすい。計画書には言葉の説明を必ず入れると思うが、それに加えて、文面の中でイメージできる言葉を添えると分かりやすい。
- ：ヒアリングでもそうだが、協働のまちづくりの「1 背景・目的」が伝わっていない。中核組織も、分からない中で行われている。協働を進めていく中で、背景・目的が一番だと思う。ここを誰でも分かるようにまとめたらどうか。それがないと、2, 3, 4もピンとこないのではないかと感じる。
- ：「4 これからの取り組み」についても、とても分かりやすく、ステップアップしていく感じを受ける。この一つひとつに、「知る」「始める」「深める」を、ここまでをやってほしいという明確な目標を決めないとぼやけてしまう。こういった団体は利益を追求しないので、何か楽しそう、何かできそうというのが一番だと思う。団体にそう思ってもらえるものにしていったらと思う。
- ：あまり高い目標でなく、みんなができそうなところを着地点にして、そこを目指す目標を入れてはどうか。その目標は、楽しそう、できそうということがイメージできるものすればと思う。
- ：「知る」「始める」「深める」を、例えば知るをステップ1, ステップ2, ステップ3に分けて紹介するのも一つの方法ではないか。知ることが重要になってくるので、例えば、漫画のようなもので説明するなど、親しみやすい形で説明も一部あったほうが良いと思う。
- ：そこまで市民目線で分かりやすく、漫画や挿絵を入れたり、表現をやわらかくした計画はないと思う。そこから市民協働を始めるとよいと思う。
- ：市民協働のまちづくり指針では、だるまの絵やイラストを入れて分かりやすいものになっているので参考にする。委員の皆さんのご意見もお聞きし、できるだけ分かりやすいものを作りたい。

○：計画の浸透のさせ方として、計画策定のプロセスを丁寧に追って記載していくことが一つあるが、そのかわり量が増えてしまう。それをダイジェスト版でバリエーションを持たせたものを作って、「知る」に力を入れ丁寧に示すことが有効ではないか。

それから、連合町内会ができるのと町内会の役割を全てそこに持っていくというイメージを強く持たれているのではないか。間違った考え方が浸透してしまうと修正するのが大変になるので、しっかり説明を計画に入れる必要があるし、ダイジェスト版にも入れていくといいのではないか。

(2) 推進方策(案)について(別紙2-1, 2-2, 2-3)

事務局より説明。

○：ステップをもう少し細かく分けて編集しないといけない。成功例や先進事例も入れて、イメージが違って伝わっているのであれば、そこを伝えることが必要。目的もきちんとうたわないといけない。基本は分かりやすく、理解しやすくがベースになる。体裁を編集し直す必要がある。

●：今日お示ししている内容は、固まったものではない。委員からいただいた意見を盛り込みながら作っていく。こうしたらいという提案をいただきたい。

○：挿絵やデザインについて対応することは可能か。

●：分かりやすいことが一番大事だと思っているので、イラストレーターを確保して、もう少しお時間をいただきながら直して行けたらと思う。

○：そこも含めて、部会を作って、文言や表現方法なども委員に関わってもらったらどうか。

●：それはいいことだと思う。みなさんに分かりやすいものを作りたい。

○：「始める」「深める」は整理され見やすくなって、活動されている方も横のつながりが出てきているが、「知る」は対象が市民で範囲も広い。中学生の職場実習に市民団体を入れていただくとか、授業に取り入れてキャリア教育の一つとしてもらうことで、中学生世代に知ってもらう取組み、具体的な施策があってもいいのではないか。「知る」は、具体的なものがあるといいのではないか。

○：「知る」は少し詳しく内容を詰めたい。セクターを分け、職場体験をされている子どもも対象であり、それは、協働の具体的な取組みの一つになる。「知る」に「知らせる」も入るのかもしれない。「知る」の部分はウエイトを少し置いたほうがいい。

○：団体間の連携は形態が3つある。大和や久井のような形と、ヒアリング対象の東側は糸崎にこれだけの町内会があるという一つの形であり、西側はそれぞれの町で一単位の町内会の形がある。それぞれどういった連合町内会を組んでいくのか、形態が変わってくる。

●：以前の委員会でも活動中核組織にはいろいろな形があるという指摘があった。まず、ヒアリング、今までの意見を基に中核組織について整理をし、それに対応できるように考えていく。

○：3つのケースに合うように作らないと、自分のところは関係ないとなってしまう。町単位で一つの町内会になっている所も多いので、この町単位のところが最終的に一番問題になってくると思う。

○：市民や市民活動団体は協働のイメージができるので、第2期計画で手順が分かるかもしれないが、自治会は「知る」が0の人もいれば、ある程度知っている人もいるので、「知る」「始める」「深める」をさらに細かく分け、それぞれステップの踏み方が違うことを表すことができないか。

○：久井、本郷、大和は中核組織ができているので、よりステップを踏んでいくという段階である。一方では、これから始めるという段階のところがあり大きな差がある。

- ：一つの計画でどうやって表していくか。自治会最初の一步編といった別冊を付けるぐらいしないと、この計画が片隅に置かれてしまう気がするので、工夫できる範囲でやる必要がある。
- ：久井、本郷、大和がどういった経過で、今の形態になったのか示していただければ参考になるのではないかと。また、中之町についても、どういった経過で連合町内会ができたのかを示してもらったらどうか。
- ：基本計画の次にそれぞれの具体的施策を進めるアクションプランを来年度皆さんと引継ぎながらやっていくようになる。計画のまとめになってくるが、それを次に繋がる計画にしなければいけない。
- ：久井町、本郷町、大和町、中之町でそうしなければいけなかった必然性があるのだと思う。その必然性についてきちんと押さえておかないと、絵に描いた餅で終わってしまう。
- ：大和では、中核組織があるが、その中でいろいろな意見が若い人から出てきて、今回、道の駅のようなことを連合会でやろうという話が出ている。こういった組織があればアイデアも出てくる。
- ：いろいろな考えや意見、アイデアを持ち寄れる場が連合組織であり、そういう場があると入っていきやすい。そういったことをアピールしていく必要がある。
- ：久井町では町内会が醸成されている。自主防災などでもマップがいらないとと言われる。隣の人に聞いたら隣のことは皆知っている。街中では、だんだんそういうことは無くなってきている。
- ：地域の特性、条件が違うので、やはり一度に全体を同じように進めることはできないと思う。そういったものと皆さんに知ってもらうことも、今回の計画の目的の一つになる。
- ：別紙2-1で、「知る」は三原市で誰がどんな活動に取り組んでいるのかを知っているとあるが、自分たちで地域の課題を気づくようになる、自分たちからアクションを起こして知る、そういったことも目標になるのではないかと思う。
- ：資料1-1の担い手不足は、会長に情報や役割など、かなり集中しているように見える。町内会で役割を分散させることが、担い手不足の解消の一步ではないか。「知る」でどう引き継ぐか、分散させるかはどの町内会でも必要で、そういうことも課題の一つに入れてもらいたい。
- ：自治会や団体の方の受入れの問題に対しても施策が必要であり、一方で行政のほうも出し方を改良していかないといけないし、両方必要だと思う。
- ：町内会が意識を変えてもらえるようにしないといけない。それから、町内会長に責任が来るのは仕方ないことである。これを分けると中途半端な情報が伝わる可能性があるため、正しい情報が町内会の方に伝わる組織を作ることが大事である。
- ：人づくりの項目があるが、サポーターのような人材を作っていくことが必要である。自治会事務のお手伝いという求人を出し、協力してもらうのも協働である。具体的施策に、そういうイメージでできるものを入れたらどうか。会長に情報などが集まるのは仕方ないが、そのサポートが必要である。
- ：自治組織に温度差がある。自治会のことについて話せないところがたくさんある。
- ：大和ではいろいろな部があり、各部で活動を計画して実施している。役員も半分ぐらいは女性である。各部に責任を持たせて、年間行事を決めて活動している。
- ：自治会と自主防災組織がイコールになっているところが多く、市内で105団体あるが、約60団体が動いて、残りの団体は動いていない。そこを見ると町内会もそうなっている。アンケートを取ると、少子高齢化やリーダー・指導者がいないという2つが大きく上がってくる。少子高齢化だけ

ら隣近所が連帯して助け合いながら生活をしないと、自主防災は成り立たない。

- ：そういう組織がなかったのでこんな大変なことが起きたという事例を皆さんに分かってもらうために、それを含めて背景や目的を表していくほうがいい。
- ：指標について広く市民に伝えるには、例えば、介護保険の改正によって高齢者支援の必要性が出てくると、コーディネーター派遣なども必要となるが、そのような支援ができるようになったことを分かりやすく評価できるとよいのではないか。何か一つ指標的なものがあれば、イメージしやすい。それと、フォーラムは回数や参加者数ではなく、フォーラムに参加して次は自分が会長をやろうという人が増えた、参加町内会が増えたということになれば、成果が出てきたということが分かる。
- ：目標は定数的なものではなく、こういうものさしで表せば、イメージしやすくなる。協働で自治会がすべきことが出てきたとき、それを機に中核組織になったり、地元が知恵を働かせたり、行政との連携が、すでに協働であると計画に入れることができれば、イメージしやすい。
- ：まちづくりプラットフォームに、例示されている環境、防災、子育てなどのテーマは非常に重要だと思う。地域によりいろいろなテーマがあるが、中心部では雇用とか、周辺部では高齢化とか、テーマについては、4の体制づくりで話し合えればと思っている。なにもかも話し合うと分からなくなるので、そのあたりを吟味する必要があるのではないか。
- ：第2期推進計画と次にアクションプラン、行動計画を作っていくというすみ分けを含めて、第2期の計画を整理しないといけない。編集したものを、もっとこういったものを入れたほうがいいとか、見せ方について検討する部会があるといいのではないか。

4 その他

事務局より、職員を対象としたアンケートを実施することを説明。市民活動団体へのヒアリング結果の報告と各団体の課題解決に向けた情報共有の場を設ける取組みを行うこと、詳細が決まり次第、委員へ案内をすることを説明。

5 閉会